



広報きたやま

2024

KITAYAMA

9

NO.263

7年ぶりの夏祭り



泉清久村政がスタート

任期満了に伴う村長選挙で初当選した泉清久新村長（62）が7月26日に初登庁しました。ここでは、新村長がテーマに掲げる「全国唯一の飛び地の村を、小さくとも賑わいのある村、笑顔の絶えない村にして、魅力ある北山村を存続させる」の内容や、初登庁で職員に伝えたことについて記載させていただきます。

具体的な施策

じゃばらの振興

新加工場を核に、生産・加工・販売を充実させ、安定させる必要がある。また、古くなった園地の再整備等による生産量アップと後継者または継承者対策に取り組む。

観光筏下り

北山村の観光資源として最も重要であると同時に、筏師の村として栄えた北山村の歴史・伝統文化として筏流しの技術を後世に残す必要がある。観光の目玉として、また、全国唯一の貴重な技術の継承のため引き続き後継者対策に取り組む。

子育て・教育支援

「子どもは村の宝物」を合言葉に行われてきた様々な取組は充実しており、今後も継続させる。子供たちが、変化の激しい社会を自身の力で生きていくために、体験学習、交流学習を充実させて、「生きる力」を育む教育を行う。

高齢者支援

心身健康で長生きできるよう健康長寿を目指し、積極的に介護予防に取り組む。また、村民一人ひとりの顔が見える予防医療を進める



職員に話をする泉新村長

職員へのあいさつ

今日から、私の公約であります「賑わいのある村、笑顔の絶えない村」を築くため、皆さんと一緒に頑張って仕事をしたいと思っています。

私は「役場が変われば、村が変わる、村民が変わる」と思っています。皆さんが、笑顔であいさつができて、「おかげさま」という感謝の気持ちを持て、時には間違うこともあるでしょう、そんなときでも、すぐに「ごめんなさい」と謝罪ができる、そんな笑顔あふれる、正直な役場にしたいと思います。皆さんには、業務をするうえにおいて、常に「これでいいのか?」「このままでもいいのか?」といった問題意識

をもって、気づきを大事にしてほしいと思います。そして、気づいた時には、それを放置しないで、みんなで議論し、積極的に意見やアイデアを出して行動するようお願いしたいと思っています。

私は、皆さんの「挑戦」に期待していますし、その責任は私が負います。

北山村が魅力ある村として後世に存続できるよう、まずは役場から着実に、村政を進めていきたいと考えています。そのためには、皆さんが心身ともに健康であることが重要です。

体調の悪い時は無理をせず、また、仕事の悩みは一人で抱え込まないようにして、一人ひとりが最大限のパフォーマンスができるようにして下さい。今日からが本番です。「プレイボール」です、よろしく願います。

奥瀬道路

第三期工事の一日も早い完成を働きかける。そして、完成後の村の振興策について、早急に議論を深める

大地震への備え

大地震が発生すると、北山村は孤立状態になると想定される。そのためには、日頃からのような備えをし、災害発生時にはどう対応すべきか、専門家を交えてあらゆるシミュレーションをする。また、村民みんなの防災意識の向上を図る

景観と自然環境の保全と活用

優れた景観と自然環境は、村の財産であり重要な観光資源であり、保全と活用を図る。まずは、村の94%を占める自然の整備について、森林環境譲与税を活用し、森林景観の保全を図り、森林の機能を高め、災害に強い山づくりに取り組む。

人口減少・対策

北山村に限ったことではない。村民の幸せに、人口の多い少ないはあまり関係ないと考えているが、多くの人が集い、交流が生まれることで、地域の魅力が増すことも間違いないと考えている。

まず、和歌山大学をはじめとした様々な連携・交流を行い、多くの学生等の来村による賑わいと同時に、外部からの目線、若者の目線で北山村の魅力を発見してもらいたいと考えている。様々な政策が連携して成果を生み、村が賑わい、笑顔が絶えない村になることで、村の魅力が増し、ひいては、移住定住や関係人口の増加につながるものと考えている。

老朽化した公共施設

早急に整理・改修計画を立て、優先順位をつけて公共施設・インフラの整備に順次取り組む

ジャパン・ツーリズム・アワード2024 「審査員特別賞」受賞

【ジャパン・ツーリズム・アワードとは】

ツーリズム（観光・旅行）の発展・拡大に貢献した国内外からの団体組織や企業・個人の持続可能で優れた取り組みを表彰しその功績を称え「旅のチカラ」として受賞取組を広く世の中に知らせるものです。

2024年は第8回目となり国内外の119件もの応募がある中、北山川観光筏下りの取り組みが見事、30例のノミネートから「審査員特別賞」を受賞しました。

9/26～29に東京ビックサイトにて開催される世界最大級の旅の祭典「ツーリズムEXPOジャパン2024」に和歌山県の各観光団体と一緒に北山村のPR出展に参加します。そのオープニングセレモニーの時に【筏流し文化の継承と観光産業への転換～小さな村の観光筏下り事業～】の取り組みが表彰される予定です。

日本で唯一残った筏文化を独自に継承しつづけており、また林業から観光へ産業転換をして周辺の観光産業にも寄与しつづけていることが稀有な例であり評価につながりました。



観光筏下り 伝統的な筏流しの始まり

5月3日、音乗で「観光筏下り」の神護神事・開航式が行われました。式には約百名の参加者にお越しいただき、村長らと共に期間中の安全を祈願しました。

今年度の筏下りの期間中の乗船者数は八千人を超えたと見込んでおり、平成17年度以降過去最高乗船客数となる見込みです。

乗船客数の増加のために、観光協会・集落支援員・筏師のみなさんが取り組んでいること

● SNSの発信の頻度のアップ、登録者数を増やす仕掛けを実施。

● 登録者数アップにより、観光筏下り、観光協会員の情報の露出が増え北山村へ来村のきっかけになる。インスタ登録者数昨年3月六百七十三名↓8月千三百二十五名

● 海外向けパンフレットの作成、SNSアカウントの立ち上げ（英語表記）北山村HPから海外の方でも予約までをわかりやすく改良、受付時の外国人観光客の対応およびスタッフへの指導

● 和歌山大学との連携による受付人員の確保

● 筏師さんの乗船者が楽しめるトークにより乗船者の満足度が高く友人等への紹介、SNSでの発信により乗船者が増えている。（北山振興）

● 観光イベントによるPR活動（観光協会、集落支援員太田、村）
↓大阪アトリウム広場（SNS登録キャンペーンにより約100名増加）

● 道の駅の改良
↓道の駅正面の看板を筏下りの写真に差し替え

（写真を撮る方が増え、SNSへのアップによる無料の宣伝となっている。）
↓道の駅内での筏下りの映像、観光協会員の紹介等をモニターにて常時放映

（筏下り予約のきっかけづくり、観光協会員の店舗の利用促進）



和歌山大学の学生が受付している様子



歯磨き教室



ラフティング体験



親子参観



一輪車講習と

下北山村小学校との交流



夏祭り



じゃばらバーガー作り



8月21日から22日、日本体育大学との包括協定に基づき、中学生3名が大学を訪問し体験授業や施設見学を行いました。
栄養学の授業や走り方の指導を受けたほか、サブライズでパリオリンピック金メダリストの3名の方に来ていただき、金メダルの実物も触るなど貴重な体験をさせていただきました。



わっしょ医!

北山村

「わっしょ医!北山村」が7月6日、おくところ公園で開催されました。祭りを楽しみながら医療や福祉の体験ができ、医療って面白いんだと、身近に感じてもらえるように診療所の内川医師が発案し開催されました。多くの飲食店や日本赤十字社和歌山県支部や新宮市消防本部、村社会福祉協議会などの様々なブースが設置され、多くのお客さんにご来場いただき、会場は大盛り上がりでした。ステージでは、元消防士の芸人「ワタリ19」さんも登場し、現役の救急隊員と救命救急の寸劇を披露したり、じゃばライダーショーも行われました。

また、「じゃばら」を使ったシロップでかき氷の早食い大会や最後には抽選会も行われ、暑さを吹き飛ばすほどの盛り上がりを見せました。



地区懇談会

大沼区民会館で地区懇談会が行われました。講師に公益財団法人さわやか福祉財団の高林稔氏をお招きし、「今、助け合いの地域づくりが求められています。」をテーマにお話していただき、10年後20年後の北山村について、大沼地区の皆様にご意見をいただきました。



避難訓練

大沼区民会館で、大沼区自主防災組織の避難訓練が行われました。訓練を行うのは、今回が初めてで、区民の防災意識の向上につながりました。訓練では地震を想定した避難、区民の安否確認、消防団による講演、非常食の炊き出しなどが行われました。多数の区民の方々に参加していただき、区民の皆様は防災意識の高さを感じられました。



ボッチャ

北山村公民館が昨年に引き続き公民館長杯として「ボッチャ」を主催しました。多くの地域の皆様にご参加いただき、誠にありがとうございました。当日は、参加者同士でのゲームを通じて、楽しいひとときを過ごしました。初めてボッチャを体験された方もいましたが、和気あいあいとした雰囲気の中で、笑顔が絶えない時間となりました。



モルック

シニアクラブにてモルックの体験を行いました。モルックのルール説明を行った後、チームに分かれて試合を開始しました。

初めてプレイする方ばかりでしたが、皆様の笑顔と熱意により、和やかな雰囲気の中で進行しました。参加者には順位に応じた記念品が贈られました。



紀伊半島知事会議

和歌山、三重、奈良の3県の知事がそろって広域課題などを話し合う、第34回紀伊半島知事会議が村民会館で行われました。

会議に先立ち、日本郵政の増田寛也社長が基調講演をし、その後、知事や市町村長が、各自自治体の取り組みや課題について議論しました。



災害訓練

新宮保健所管内の市町村が保健所と連携し、災害時保健活動研修を行いました。

この訓練は、災害発生時の参集から、建物の安全確認・物品確認や保健所との通信訓練など実際の災害を想定したものです。

訓練後には各市町村で情報共有を行い、今後の活動に生かせるよう申し合わせました。



夏祭り・柱松

北山夏祭りが7年ぶりに開催されました。

コロナや天候の関係で長らく開催していませんでしたが、久々の開催ということで村民の皆様も、盆踊りや飲食を大いに楽しんでいる様子でした。

柱松も実施しましたが、残念ながら火を入れることが出来ませんでした。



わっしょ医！北山村、 皆様ありがとうございました。

2024年7月6日（土）、医療が溶け込んだ北山村のお祭りと銘打って「わっしょ医！！北山村」を開催することができました！！北山村役場、じゃばらいず北山、北山村診療所に北山村社協、北山小中学校の先生方に観光センターや商工会、道の駅おくとり、北山振興、村内で村外・県外でお店を出されている皆さまなど多くの方々に多大な協力を賜り、その上で村民の皆さまとご家族様の応援のおかげで無事盛況にお祭りを終えることができました。

この場を借り改めて皆さまに心からの感謝を申し上げます。

わっしょ医！！北山村を通じて、医療の点・診療所の立ち位置からこれからどのように北山村の安心・健康に繋げていけるかを考えているのですが、そのうちの3点ほどお話にお付き合いいただければと思います。



出店していただいた社会福祉協議会の皆さん

足健診をしっかりと活かして
「100歳まで歩ける村」を目指す。

今回、医療企画の一つとして「足の健康診断」を北山村商工会の協力もあり、あのだ田先生もお迎えして実施することができました！！足の健康診断はジャパンヘルスケアの岡部先生が「内科健診はあるのに、どうして運動器健診はないのだろうか？100歳まで健康を目指すのであれば“足の健康”も大切だ！！」という思いから各地で開催されている企画です。

総勢85名が健診を受けて下さり、現時点でも診療所に相談に来て下さった方々もいらっしゃいます。理学療法士の田中先生や

診療所スタッフとも相談し、9月には「インソール（靴の中敷き）作成 + 理学療法」を必要な方々に提供できるように準備を進めております！！介護予防の点から、北山村は100歳まで歩けるを実現できる村として胸を張れるように取り組んでいきたいと思ひます！！



足の健康診断ブースのメンバー



内川先生・山崎保健師の

健康講座

Health Course

・わっしょ医！北山村

コミュニティの繋がりとは防災の要、
災害に耐えられる北山村に。

今回、日赤和歌山医療センター・日本赤十字社和歌山県支部・赤十字血液センターも応援に駆けつけて下さいました。

日赤には“救護班”という組織があり、災害時に実際現場に出向き救護活動を行っている心強い存在です！！しかし、本当に大きな災害が発生した時は“救護＝助け”が来てくれるまでは、なんとかその地域自身で急場を乗り切らなければなりません。地域で災害に備える、防災の意識が第一に重要だと言われています。そして、地域での防災への取り組みにおいて重要とされているのが「コミュニティ（例えば下尾井・大沼・竹原・七色）の繋がり」と言われています。北山村は村と

してもコミュニティ間の繋がりが本当に強いと感じており、わっしょ医！！北山村がその一つの証明になったとも思ひます。このことは防災にとって重要な要素になるので「防災力の高い北山村」を目指すことも北山村なら出来ると感じ、医療の点からも何か少しでも協力できればと考えています。



日本赤十字社ブースの様子

未来の北山村の医療を守って
くれる医療人を増やしたい。

わっしょ医！！北山村を通じて北山村に、北山村での医療介護福祉に興味を持ってくれる学生や医療従事者を増やしてなんとか実習や見学に繋がれたらと虎視眈々狙っています！！もちろん、未来の北山村の医療介護福祉を直接に支えてくれる人材が生まれればそれに越したことはないですが、例えば実習に見学に来てくれた医学生や看護学生が医師・看護師となり新宮市立医療センターや紀南病院で勤務することになったとします。救急搬送時や外来治療で悩ましい時などに「あ、北山村の患者さんか、、、あの地域で今を乗り切るのは少し厳しいか？？どうするのがベス

トだろう？？」と北山村の特性を知りつつ提供する医療を検討してくれる医療従事者が増えていくかもしれないと本気で思っています！！なので、診療所で実習生を受け入れる際に、色々な部署に突然見学をお願いしに行く場面があるかも知れませんが、その際は「北山村を知る医療者になるんやな」と暖かい心で迎えて下さると幸いです！！【北山村で医療人を育てる】そんなイメージが実現できれば嬉しいなと考えています。

診療所に来ていただいた実習生



消防団だより No.2

消防団は消防署とともに、地域における消防防災の中核として重要な役割を担っています。また、その構成員である消防団員は、通常は各自職業に就きながら「自らの地域は自らで守る」という精神のもと、火災の予防、警戒、鎮圧、災害の予防など様々な活動を行っています。

今回は、もし家が火事になった場合の初期消火と火傷の応急処置についてご紹介します。

初期消火の3原則

1 早く知らせる

- ・大きな声を出して周りに知らせる
周囲の人の助けを借りる
- ・小さな火でも119番へ通報する

119番



2 早く消火する

- ・消火器等で消火する
(事前に場所・使い方を確認)
- ・濡れたタオルで火をおおうなど、手近なものも活用する
- ・煙が広がって視界がきかない、または、炎が天井に届いたり、自分の背丈より大きくなった場合は、迷わず避難する

3 早く逃げる

- ・持ち物にこだわらず、早く家の外へ避難する。
- ・燃えている部屋の窓やドアは閉めて逃げる
- ・一度逃げたら、絶対に家の中へは戻らない



火元別初期消火のコツ

● 油なべ

あわてて**水をかけるのは厳禁**。消火器がなければ、濡らした大きめのタオルやシーツを手前からかぶせ、空気を遮断して消火を。

● 石油ストーブ

出火から3分以内が消火できる限度。水や消火器だけで消そうと思わず、毛布やカーテン(防火製品を活用)で火をおおうなど、手近なものを活用する

● 電化製品

いきなり水をかけると感電の危険が。まずコードをコンセントから抜いて(できたらブレーカーも切る)消火を。

● 衣類

衣類に火がついたら転げ回って消すのも方法。髪の毛の場合なら、衣類(化繊は避ける)やタオルなどを頭からかぶせてもみ消す



火傷の初期対応

基本は、水道水で冷やす、出来るだけ早く水道水の流水で15分以上冷やします。

● 火傷の範囲が狭い場合

指や足の火傷は、1時間程度冷やすことで、痛みを和らげることができます。保冷剤や氷などを直接患部にあてると、皮膚が冷えすぎて凍傷をおこしてしまったり、保冷剤が傷口にくっついてしまうので注意が必要です

● 火傷の範囲が広い場合

衣類を無理に脱がそうとすると、皮膚と一緒に剥がれてしまうことがあるので、衣類はそのまま、衣類の上から冷やします。初期対応を行い、必ず医療機関を受診してください。

いざとなったら頭が真っ白になってしまい何をしたらいいのか分からなくなります

慌てずに、命を守る行動をしてください

Information

村からのお知らせ

事業継承・引継ぎ支援センター

からののお知らせ

事業承継のご相談をお受けします

和歌山県事業承継・引継ぎ支援センターは、国が設置する公的な相談窓口です。事業の円滑なバトンタッチをサポートし、スムーズな承継を支援します。「後継者がいない」「誰かに引き継いでもらいたい!」「従業員に会社を任せたい!」「新分野に進出したい!」「子供が後を継ぐ場合の手続きは?」などご相談があればお気軽にお問い合わせください。相談は無料。秘密は厳守します。

お問い合わせ先

和歌山県事業承継・引継ぎ支援センター
☎ 073-499-5221

あづまプラッツからのお知らせ

ひきこもり支援ステーション事業

あづまプラッツとは、「外へ一歩踏み出したい」「誰かと話したい」「そんなときに気軽に立ち寄れる「居場所」です。支援員が生活のこと、将来のこと、そのほか困っていることについて、ご本人やご家族から、相談をお受けします。

日時

令和6年10月9日(水)
10時~12時

相談会場

北山村村民会館

お申込み先

ひきこもり者社会参加支援センター あづまプラッツ
☎/FAX 073-499-5221

里親支援センターほっとからののお知らせ

厚生労働省では、毎年10月を「里親月間」と位置づけ、里親委託を推進するための集中的な広報活動を展開しています。

さまざまな事情で実の親と暮らせない子どもを家庭で育てる「里親制度」の普及が課題となる中、里親支援センターほっとは11市町村でさまざまな啓発活動を展開しています。

里親制度とは?

- ・さまざまな事情で実の親と暮らせない子供を家庭で育てる制度
- ・子どもが自立するか家庭に戻れるようになるまで受け入れる「養育里親」
- ・養子縁組を前提にした「養子縁組里親」
- ・虐待や非行などにより専門的な支援が必要な子どもを受け入れる「専門里親」
- ・親族が養育する「親族里親」
- ・週末や長期休暇中だけ預かる「週末里親」「季節里親」

里親巡回パネル展

10月3日(月)~26日(水)

里親相談会

10月6日(木)・18日(火)
11~13時

会場

どちらもイオン新宮店1階

お問合せ

里親支援センターほっと
☎ 0739-341-2735

和歌山県からののお知らせ

人権相談に関する相談窓口のお知らせ

和歌山県では、人権に関する様々な相談に応じるため、(公財)和歌山県人権啓発センターに人権相談員を配置するとともに、弁護士による法律相談を実施しています。

人権に関することでお悩みの方は、一人で悩まず、ご相談ください。

常設相談(電話相談・面接相談)

電話 ☎ 073-421-7830

FAX ☎ 073-435-5421

開設日 月曜日~金曜日(祝日・年末年始除く)

時間 午前9時~午後4時

弁護士による法律相談 ※事前予約制

電話 ☎ 073-435-5420

FAX ☎ 073-435-5421

開設日 奇数月..第二土曜日・第四木曜日

偶数月..第二・第四木曜日

※祝日の場合は、原則、その翌日

時間 午後1時~午後4時

お問合せ 和歌山県人権政策課 ☎ 073-441-2561

FAX ☎ 073-433-4540



広報きたやま
2024 NO.263

発行 北山村役場 住民福祉課
〒647-1603 和歌山県東牟婁郡北山村大沼42番地
TEL: 0735-49-2331 FAX: 0735-49-2207

村の人口
9月1日現在

人口 381人 (-8)
世帯数 239戸 (-5)
高齢化率 42.3%
男性 181人 (-4)
女性 200人 (-4)
※ () 内は前号比

消防団だより つづき・・・

● 台風に備えて!!

台風襲来のシーズンの時期になってきました。

近年は気候変動の影響から海水温が高く大型の台風が発生しやすくなっています。また、台風に限らず短時間に狭い範囲で非常に激しく降る雨も頻発しています。

ネットやテレビの天気予報、気象情報などで日本に接近する台風情報が出たら、注意をして早め早めの備えをしてください。役場からの避難指示などが発表されたら速やかに避難行動を始めてください。

また、日頃から家族などと避難するときの安全なルートを確認
非常用品の確認も行いましょう。

●地震への備えも怠りなく。



広報担当の枠

暑すぎましたね。

年々暑さは増してる気はしていましたが、今年の夏は異常に暑かったですね。暑すぎて外に出ることが減って、自宅でクーラーを着ける時間が長かったせいか、電気代がめちゃくちゃ高くてびっくりしました。でも川に遊びに行くと、暑さのせいか水温が高く感じて泳ぎやすかったので、子どもと一緒に川の中でずっと遊んでいました。趣味のバーベキューは、なぜか暑くても暑さをあまり感じずに外で出来ました。今回の広報誌でも紹介している「わっしょ医!北山村」も多くのお客さんに来ていただきましたが、異常な暑さの中、無事何事もなく終われたので良かったです。私は帽子もかぶらず、ずっと写真を撮っていたので、帰ってから疲れて倒れました。

(広報担当: 橋爪 大希)